

「長良川9.12豪雨災害リレーパネル展」

In 岐阜県庁 (2026/08/03～08/21(08/08,09休止))



長良川9.12豪雨災害

木曽川上流河川事務所

昭和51(1976)年、岐阜県安八町での堤防決壊などにより長良川沿いに広く浸水被害をもたらした「長良川9.12豪雨災害」から、今年で50年が経ちました。

自然災害が多発する今、長良川9.12豪雨災害の被害や復旧活動の写真を中心に展示することにより、その時の経験と教訓を次世代へ語り継ぎ、防災意識を高めて地域防災力の向上につなげていくため「リレーパネル展」を開催しています。

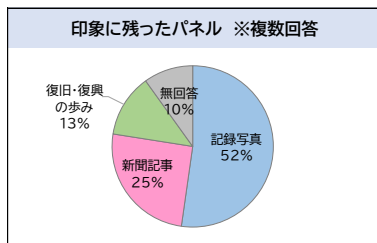
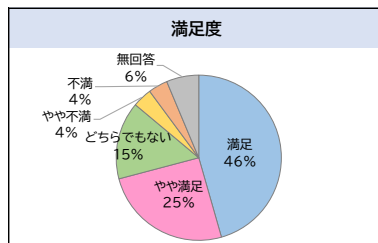
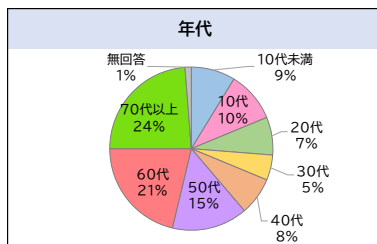
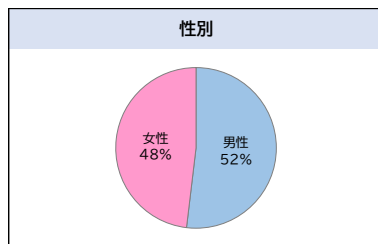


パネル展示



(一社) 中部地域づくり協会パネルサポーターによる説明

【パネル展に関するアンケートの結果】 (回答人数: 79人)



<アンケート結果のまとめ>

約7割(71%)の方が「満足」または「やや満足」と回答し、多くの来場者から好評をいただきました。また、記録写真が最も印象に残った展示として挙げられ、新聞記事とともに当時の災害の状況を伝える資料への関心の高さがうかがわれました。来場者は10代未満から70代以上までの幅広い年代にわたり、豪雨災害の記憶や教訓を振り返る有意義な展示会となりました。

<パネル展への主な感想>

- 過去の災害を振り返ることで、災害の記憶を風化させず、防災への意識を高めるとともに、当時を知らない世代が災害を学ぶ機会となった。
- 記録写真や新聞記事などの資料から、災害の脅威や被害の大きさを実感することができた。
- 地域で発生した災害を身近な出来事として捉え、自らの地域でも起こり得る災害について考えるきっかけとなった。
- 展示内容に加え、会場案内や解説を通じて理解が深まり、展示会をより有意義に見学することができた。